

# Prevalence of atopic dermatitis in Japanese adults and community validation of the U.K. diagnostic criteria.

出典 J Dermatol Sci. 2009 Aug; 55(2): 140-141.  
(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/19427173>)

著者 Saeki H 他

調査地域 北海道、大阪府

調査時期 2007~2008 年

調査対象 20 歳以上

依頼数 2137 人

診断方法 医師による診断

有症率 20 代 : 10.5%  
30 代 : 7.8%  
40 代 : 3.9%  
50~60 代 : 2.5%

男女別有症率	男性	女性
全体 :	4.9%	7.3%
20 代 :	9.0%	10.9%
30 代 :	7.7%	7.8%
40 代 :	4.0%	3.6%
50~60 代 :	2.1%	3.2%

大学別有症率	旭川医科大学	近畿大学
20 代 :	11.2%	6.8%
30 代 :	8.3%	6.8%
40 代 :	2.5%	5.7%
50~60 代 :	2.6%	2.4%

調査概要 2007~2008 年に旭川医科大学と近畿大学職員 (20~60 歳代) を対象に行った健康診断にて、皮膚科医による診察を行ったところ、アトピー性皮膚炎の有病率は 6.1% (男 4.9%、女 7.3%) であった。同時に UK ワーキンググループに基づく質問票も配布し、感度は 68.8%、特異度 93.5%であり、将来的に疫学調査において有用となるかもしれない。